

小牧市下水道事業 長期経営計画 概要版

(令和4年度～令和33年度)

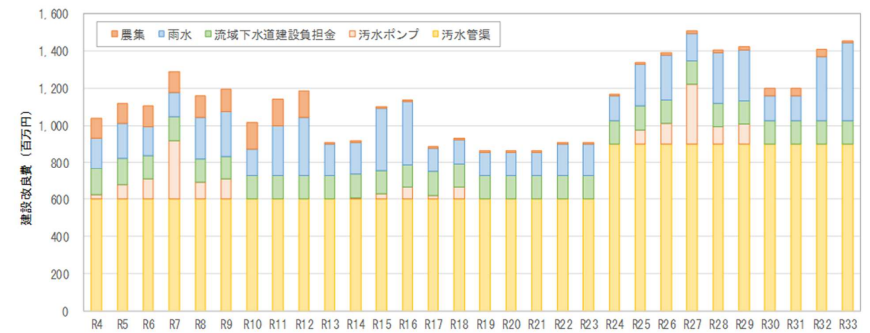
(1) 投資計画

1) 現況と課題

- 流域関連公共下水道事業の全体計画区域 3,715ha のうち令和 2 年度末で 2,282ha の整備を完了しましたが、1,433ha の新規整備が残っており、概成(概ね工事が完了すること)まで90年を要します。
- 汚水管の老朽化により改築・更新工費が増大し、令和 24 年度以降は毎年 6 億円の工費が必要です。また、農業集落排水事業は布設した管路の劣化が顕著であり、すでに更新工事が始まっています。
- 流域関連公共下水道事業では 1 つの汚水ポンプ場と 4 つの雨水ポンプ場、農業集落排水事業では 1 つの処理場を所管していますが、15 年から 20 年周期での更新工事が必要です。

2) 長期見通し

令和 24 年度以降、汚水管の更新費用の増大にあわせて、建設投資額も増大します。



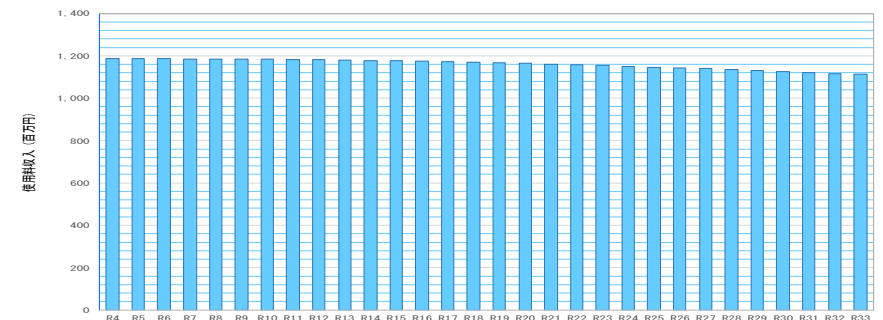
(2) 下水道使用料

1) 現況と課題

供用開始区域の拡大に関わらず、人口減少や世帯人員の減少に伴い使用水量が減少し、使用料収入の伸びも鈍化・減少すると想定されます。

2) 長期見通し

令和 33 年度は令和 4 年度に比べて約 7 千 4 百万円 (6.2%) の減少となる見込みです。



第1章 長期経営計画策定の趣旨・対象期間 (本編 第1章・第8章)

(1) 背景と目的

小牧市が取り組む下水道事業(以下「本事業」という)は、現在も新規整備による下水道整備面積の拡張を鋭意進めている一方で、事業開始から40年以上が経過し、下水道施設の老朽化により施設等の更新費が増大していることや、人口減少による下水道使用料収入の減少が見込まれ、「投資の増大」や「財源の減少」が加速することで経営環境は厳しさを増しています。

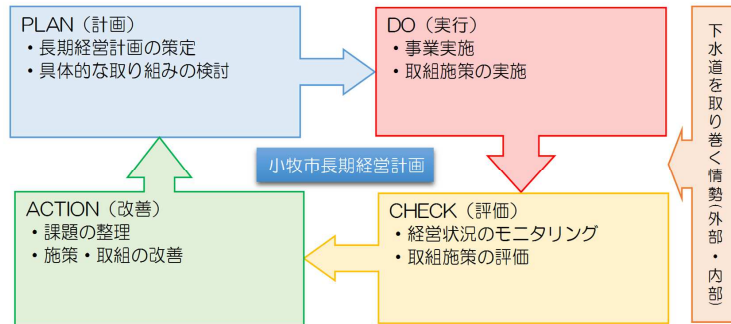
このような環境の下、本事業について、中長期的な経営の基本計画である「長期経営計画」を策定することで、適正な投資規模の検討や、収入と支出が均衡する健全な事業経営による安定した下水道サービスを持続して提供することを目指します。

(2) 対象期間

長期的な建設計画(新規整備、改築・更新等)や長期の人口動態、SDGs(持続可能な開発目標)などを踏まえ、長期経営計画の検討対象期間は今後30年間(令和4年度～令和33年度)とします。

(3) 進捗管理

長期経営計画の実施に当たっては、PDCA サイクルに基づき、各種施策の実績や進捗状況等を毎年度確認(モニタリング)するとともに、5年毎に蓄積した問題点や改善点を踏まえ本計画を見直ししていくことで、経営の効率化や安定的な事業運営を図ります。



第2章 小牧市下水道事業の概況 (本編 第2章)

(1) 流域関連公共下水道事業

市街化区域を中心に流域関連公共下水道(県が所管する処理場を利用する下水道)として下水道事業を実施しています。昭和 52 年度に事業を開始、昭和 62 年度に供用開始しており、現在も新規整備を進めています。

(2) 農業集落排水事業

農業集落排水事業は大草地区を対象として、平成 8 年度に事業採択され、平成 16 年度に大草浄化センターの供用を開始しました。

本計画では将来にわたり安定した下水道サービスの提供を行うことを前提とし、“下水道整備区域の早期概成”、“経営の健全化”の2つの柱を基本方針として設定し、事業経営の強化・改善を図っていきます。

(1) 下水道整備区域の早期概成

改築・更新費用が増大する令和24年度を期限に下水道整備の概成を目指します。

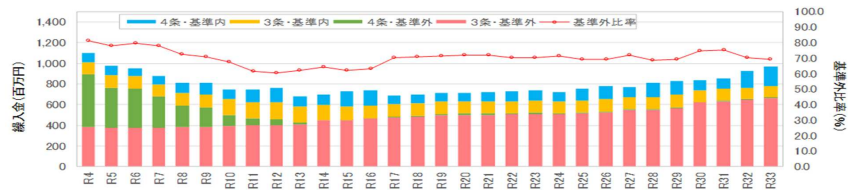
数値目標① 全体計画達成率（供用開始面積／全体計画面積）を令和13年度までに90%以上、令和24年度までに100%を目指します。

(2) 経営の健全化

投資計画及び下水道使用料に加えて維持管理費や投資財源を試算して収支見通しを作成し、経営状況の基準となる一般会計繰入金及び経費回収率を推計しました。

1) 一般会計繰入金

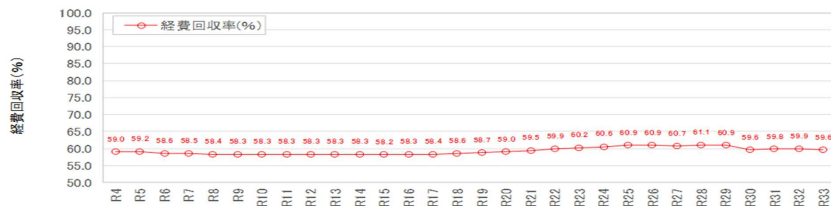
一時的には減少するものの、令和24年度以降の投資額の増大に伴い増加に転じる見込みです。特に赤字補てんとされている基準外繰入金のうち3条収支（事業運営費・維持管理費に関する収支）が上昇傾向にあるため、基準外繰入金の抑制する施策を検討します。



数値目標② 一般会計からの基準外繰入金を抑制します。

2) 経費回収率

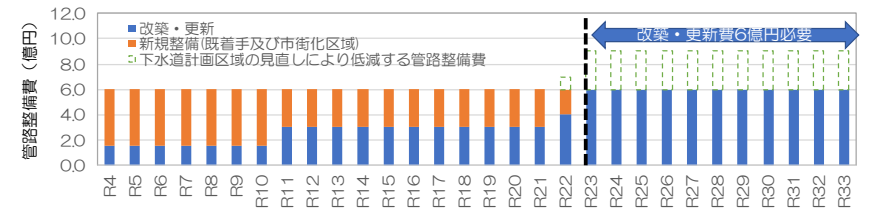
経費回収率は、「使用料収入÷汚水処理費×100(%)」で示される指標です。見込みでは59%前後の横ばいですが、下水道経営は、経費の負担区分を踏まえ、汚水処理全てを使用料によって賄うことが基本原則とされていることから、経費回収率が100%を上回ることが望ましいとされています。



数値目標③ 経費回収率100%以上を目指します。

(1) 下水道整備区域の見直し

市街化調整区域を原則、下水道整備区域から合併処理浄化槽区域へ変更することとします。



(2) 農業集落排水施設の流域下水道への統合の検討

大草浄化センターの改築・更新時期が迫ってきている中、施設の広域化・共同化の一環として処理区の統合を図るため、流域関連公共下水道への編入を想定した接続検討を行います。

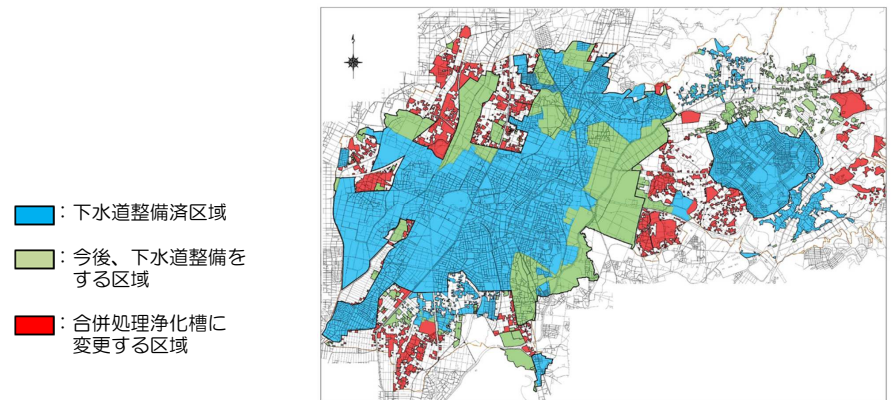
(3) 不明水対策

下水道は地下に管渠が埋設されていることから、地下水の流入などによる不明水があります。不明水が増えると、使用料収入の対象である有収水量よりも、多い水量を処理しなければならないことから、維持管理費が増大するというデメリットがあります。管内カメラ調査などの不明水対策を実施し、維持管理費の縮減を図ります。

(4) 適正な使用料収入の検討

本事業は平成2年4月以降、30年以上も使用料を改定していません。経費回収率を向上させ、経営を健全化するために適正な使用料収入を検討します。

※本編第7章では、下水道整備区域の見直しと使用料改正を実施した場合の経営改善シミュレーションを実施していますが、シミュレーションの試算をもって、ただちに使用料改定を決定するものではありませんのでご注意ください。



【発行元】 小牧市上下水道部上下水道経営課 【電話】 0568-79-1305
 【住所】 小牧市古雅四丁目117番地 小牧市水道管理センター 2階